

お花畑を求めて 東北屈指の花の名山へ
焼石岳

実施日 2016年7月23日(土)～24日(日)
 天候 23日 晴れ/曇り 24日霧/晴れ
 リーダー 濱田 優美子
 参加者 涌井良明、石附智恵、伊藤久雄、
 宮崎敏男、濱田優美子 計5名
 費用 JR25,040円(東京起算) 7,996円
 タイム 23日 水沢江刺駅(11:38~12:40
 中沼登山口(12:50~13:30)中沼(13:43~14:40)つ
 ぶ沼分岐(14:45~15:15)
 銀明水(15:25)銀明水避
 難小屋 泊
 24日 (5:50~6:50)中沼・休(6:55
 ~7:15)姥石平分岐(7:25~
 7:50)東焼石岳(7:55~8:1
 5)姥石平分岐(8:25~8:50)
 焼石岳(8:55~9:25)9合目
 (9:35~10:25)7合目(10:30
 ~11:30)5合目(11:30~12:
 05)3合目駐車場(12:15~1
 3:30)薬師の湯(14:45~
 15:00)水沢江刺駅

水沢江刺駅に集合するとタクシーもす
 でに待っており、そそくさと乗車し、中
 沼登山口に向かう。

東京を出た時は曇っていた空も、目的地
 に近づくと従い日も照りだし、幸先良好。
 今日は、2時間も歩かないので気も楽だ。
 緑の美しい森をしばらく登ると、中沼



に到着。風のない
 中沼は、山の姿を
 湖面に映し、静寂
 そのものだ。

一休みし、湖岸を
 歩くと、岸のはるか前方に黄色い花の群
 落が見える。

これがとうげぶきで、この先この花が
 ずっと今回の山行
 コースを彩ってい
 くことになる。中
 沼を過ぎるところか
 ら、いわしもつけ、



あざみ、アヤメなど様々な花も目を楽し
 ませてくれるようになる。

間もなく銀名水に到
 着。水は冷たくおい
 しい。小屋はそのす
 ぐ上にあり、2階建て



の立派なものだ。今日の泊りは、のちに
 着いた2人を加
 え、7名で広々と
 寝る。…とは
 言っても、広々
 と使っていたの
 は、我々5名だけだった。宴会、夕食の
 後、7時には早々に横になる。宮崎さんの
 作ってくれた野菜たっぷりのキムチ汁が
 おいしかった。



24日 4時起床。昨日とは違って、雲
 が空を覆っており、時々霧となって降っ
 てくる。山は見えず、残念な夜明けだ。

朝食は、火を使う人もほとんどなく、
 5時には大方出発準備も済む。明るくな



ってきて晴れてく
 るのを期待しなが
 ら時間を過ごすが、
 ついに待ちきれなく
 なって、5時50分に

合羽を着て出発する。

上がりそうで上がらない空を眺めなが
 ら、それでも、そこ
 こに咲く花はみずみず
 しく美しい。



姥石平につき、ザッ

クをデポして東焼石岳に向かう。山頂は風もあり寒いので、早々に引き上げる。わずかに数秒鳥海山が姿を見せるが、ほとんど遠景はきかない。だが、お花畑は、数々の花が咲き乱れ、さすがは花の焼石岳の名にふさわしい。今年



は雪が少なかったというご多分に漏れず、雪渓はわずかにみられるだけで、ほとんど見られなかったが、おりしも、日がさし、今にも届きそうなすぐそばから虹の架け橋がかかった。ザックをピックし、焼石岳への最後の登りを登り切ったが、残念。相変わらず遠景はきかなかった。

寒いので、ここも早々に出発し、下山を開始。

思いもかけない大きな岩の連続に、皆、悪戦苦闘し、やっと9合目に着いた時はすでに9時半近かった。



3合目でタクシーが待っているのは11時半。だが、まだコースタイムは2時間ほどある。休息

の時間を入れ、また、今までコースタイム通りに歩いていないことを考えに入れると、間に合わない可能性が出てきた。

昨日ののんびりペースとはうって変わってピッチを上げ、せっせせっせと歩き出す。一方、稜線を超え、秋田県側に入った天気は、一気に回復し、焼石が本来持っているのびやかで静かな草原の風景

があたりに広がっていた。その美しさに、今までの所もずっとこんな感じの所だったのかと、無念残念の気持ちが増してくる。振り替えると山は相変わらず雲の中で、今行く通りすがりの人たちも、やはり景色は見られないぞと、心の狭い考えが浮かび、少し慰められた気になるというのも、人間の浅ましさか。



ピッチを上げて歩いたが、コースタイムはやけに厳しく、5合目に着いた時には

すでに11時半になっていた。

休息も返上し、そのまま歩き続け、やっと12時過ぎにタクシー待つ3合目に到着した。幸いタクシーは待っていてくれそのまま、訓練山行のようになってしまっただけで、心から感謝します。ありがとうございました。景色はほとんど見られなかったけれど、焼石、いい山でしたね。



急ぐ山行ではなかったので、今から考えるともっと余裕のある時間設定をすればよかったとあとから後悔したが、文句も言わず、せっせと歩いてくださったメンバーの皆さんには心から感謝しま



す。ありがとうございました。景色はほとんど見られなかったけれど、焼石、いい山でしたね。

(記・濱田 優美子)

(写真提供・涌井 良明)